

平成 23 年度補助事業プレゼンテーション資料

プレゼンテーション 1

公益財団法人 日本体育協会

事務局長 川島 雄二
財務部長 根本 光憲

補助事業名
～国内スポーツ競技力向上のための事業補助事業～

プレゼンテーション 2

社会福祉法人^{恩賜}財団_{財団} 済生会

本部事務局 事業部次長 百瀬 良彦
新潟県済生会三条病院 総務課長 有坂 洋
検診科主任 泉 泰一

補助事業名
～検診車の整備補助事業～

プレゼンテーション1

補助事業名

～国内スポーツ競技力向上のための事業補助事業～

公益財団法人 日本体育協会

事務局長 川島 雄二

財務部長 根本 光憲

平成23年度補助事業 自己評価書

番号	23-1-050
項番	1/8

補助事業者名	公益財団法人 日本体育協会		
補助事業名	国内スポーツ競技力向上のための事業補助事業	事業項目名	国民体育大会実施事業

1. 社会的課題と補助事業の関係整理

社会的課題 (最終目的)	状況	スポーツは、人間にとって豊かで活力に満ちた生涯を生きていく上で必要不可欠な文化としての意義を有するとともに、「健康」、「コミュニティ」、「教育」、「国際化」や「環境」といったキーワードで表現される現代社会における様々な諸問題への対応に貢献するものである。
	補助事業で解決・改善を目指す	国民一人ひとりが豊かで活力ある生活・暮らしを目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適性、興味・関心等に応じ、主体的にスポーツ文化を享受することのできるスポーツライフスタイルを構築していく「生涯スポーツ社会」の実現を目指す。



補助事業	目的 (中間目的)	国内最大・最高の総合スポーツ大会である国民体育大会は多くの競技者の大きな目標となっている。大会が活性化されることにより、国内競技レベルの向上やその先を見据えた国際競技力向上など競技の強化・普及の一助となり、この事により国民のスポーツへの興味・関心が高まり、波及的に「生涯スポーツ社会の実現」を目指す。
	受益者	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者 ・大会運営関係者 ・開催地地域住民
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国民体育大会の、各ブロック単位で行われる予選会を「国体ブロック大会」として位置づけ、競技の水準を高めるとともに、少年から成人にいたる幅広い年齢層の競技者に対して、日々のスポーツ活動の成果を発揮する機会を提供する。 ・4月から1月にかけて北海道ブロック(北海道)、東北ブロック(宮城県)、関東ブロック(茨城県)、北信越ブロック(長野県)、東海ブロック(三重県)、近畿ブロック(兵庫県)、中国ブロック(岡山県)、四国ブロック(愛媛県)、九州ブロック(佐賀県)の9ブロック、ラグビー・ホッケー競技の2ブロック間代表決定戦を行った。 ・国体ブロック大会開催9道県体育協会または実行委員会から提出される交付申請書、実績報告書に基づき本会にて内容を精査を行い、予算どおりに助成金を執行し、事業を実施することができた。
結果・成果	全国9ブロックでの開催により本大会が競技性の高い大会になるとともに、五輪代表選手等の日本代表選手の出場により、少年から成人にいたる幅広い年代の競技力向上につながった。また、持ち回り開催としていることで、各ブロック内で身近に競技力の高い選手に触れられる絶好の機会であることから、地域スポーツにおける競技者育成の充実や、競技運営スタッフ等を通して地域スポーツの活性化に寄与した。なお、事業終了後、各ブロックにおける地域スポーツクラブ数はいずれも増加した。	

2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

事業全体の総括的感想	事前計画に基づいた事業実施・予算執行を行うことができ、実施体制、効率性についても問題なかった。
今回の事業で、優れていると評価できる点	<p>【実績】 本事業の実施体制</p> <p>【理由】 本大会は各ブロック内での持ち回り開催としており、運営方法のノウハウが次年度開催地等にうまく引き継ぐことができている。</p>
今回の事業の課題、改善すべきと思われる点	<p>本会では、平成15年3月、国民体育大会の将来像として「新しい国民体育大会を求めて～国民体育大会改革2003～」を公表し、より競技性の高い国内トップレベルの大会として構築するとともに、ジュニアからトップアスリートを含む幅広い競技者層を対象に競技者の発掘・育成の場として、大会の充実・活性化を促進する方向性を示した。</p> <p>上記方向性を踏まえ国民体育大会を時代に適応した大会とすべく、具体的な改革内容を取りまとめ、関係機関・団体の理解、協力を得て、その具現化に向け、鋭意取り組んでいるところである。</p>
事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点	国民スポーツの振興に伴い、競技環境の充実には目覚ましいものがある。競技者や競技運営者側からも、国体や国体ブロック大会において、大会を運営する役員・審判、使用する競技用具・器具、会場となる施設に対する質的向上への要望は強くなっている。各中央競技団体においても、一定の水準を維持した競技を運営するには、国際競技連盟ルールに基づく役員・審判や用具・器具を配置して、設備の整った競技施設を利用して、大会を準備し運営することが望まれている。これに応えるべく、本会では主催者として、より安定的で、より高度な水準の大会運営体制を目指していくこととしたい。

平成23年度補助事業 自己評価書

番号	23-1-050
項番	2/8

補助事業者名	公益財団法人 日本体育協会		
補助事業名	国内スポーツ競技力向上のための事業補助事業	事業項目名	日本スポーツマスターズ

1. 社会的課題と補助事業の関係整理

社会的課題 (最終目的)	状況	スポーツは、人間にとって豊かで活力に満ちた生涯を生きていく上で必要不可欠な文化としての意義を有するとともに、「健康」、「コミュニティ」、「教育」、「国際化」や「環境」といったキーワードで表現される現代社会における様々な諸問題への対応に貢献するものである。
	補助事業で解決・改善を目指す	国民一人ひとりが豊かで活力ある生活・暮らしを目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適性、興味・関心等に応じ、主体的にスポーツ文化を享受することのできるスポーツライフスタイルを構築していく「生涯スポーツ社会」の実現を目指す。



補助事業	目的 (中間目的)	大会の認知度が向上していくことで、中・高齢者のスポーツ愛好者や競技者の更なる増加や生涯スポーツの普及による健康増進、幅広い年齢層が活動する地域スポーツクラブの活性化などが見込まれ、本会が目指す「生涯スポーツ社会」に寄与する。
	受益者	競技志向の高いシニア世代のスポーツ愛好者、一般のスポーツ愛好者、開催県体育協会(実行委員会)等大会運営関係者、開催地地域住民
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全国のスポーツ愛好者の中で、競技志向の高いシニア世代を対象としたスポーツの祭典を開催する。 実施競技:水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、ソフトテニス、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、空手道、ボウリング、ゴルフ 計13競技 ・大会実施にあたり、大会実行委員会だけでなく、競技団体部会等直接運営に係る関係者による事前会議を併せて開催した。また、大会終了後にも事業報告や今後の課題整理のために競技団体・会場市町村連絡会議、大会実行委員会を開催した。大会PRのために公式ポスター2,900枚、パンフレットを20,700枚作成し、全国の都道府県体育協会等本会加盟団体を通じ、当初計画通り大会の告知・PRを行うことができた。 ・大会は、9月16日に開会式を、17日～20日には計13競技会を実施した。 ・節約執行に努め、旅費や印刷費は減額となった一方、各会場に既設置の競技用設備が十分でなかったことから、競技会実施のための会場設営費等が当初計画を上回った。
	結果・成果	本大会の主要な対象者層である競技志向の高いシニア世代のスポーツ愛好者を中心に、大会認知度は年々高まり、当初目標を上回る参加者が集まった。また、実施競技については当初計画どおり、水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、ソフトテニス、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、空手道、ボウリング、ゴルフの計13競技を実施した。

2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

事業全体の総括的感想	本大会は、スポーツ愛好者の中で競技志向の高い中・高齢者層を対象としたシンボリックな大会として開催し、スポーツへのチャレンジ意欲の啓発、継続的なスポーツ実践者の増大等、スポーツ文化を豊かに享受する生涯スポーツ社会の実現に寄与することができた。
今回の事業で、優れていると評価できる点	本大会は、第11回目の開催であり、国民の健康への意識の高まりやスポーツ愛好者の増加にあわせ、シニア層を対象としたシンボリックな大会として認知度が高まってきている。年々参加者数は増えてきており、社会のニーズに的確に応えられていると考える
今回の事業の課題、改善すべきと思われる点	各競技団体内で運営方法のノウハウが蓄積されて来ているが、うまく引き継がれていない面や、開催地の特色を活かしきれていない面がある。また、年々参加者数が増加していることから、大会規模拡大に伴う個々の競技の実施方法や利用施設の形態などの変更を検討、推進していく必要がある。
事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点	今回で11回目を迎えた本大会は、スポーツ愛好者の中で競技志向の高い中・高齢者層を対象としたシンボリックな大会として開催している。スポーツへのチャレンジ意欲の啓発、継続的なスポーツ実践者の増大等、スポーツ文化を豊かに享受する生涯スポーツ社会の実現に寄与するとともに、今後も幅広い年齢層へのスポーツ振興を図る上で、重要性が増していることは、年々参加者が増加傾向にあることから窺える。高齢社会をむかえ、元気な中・高齢者層が増え、競技力が高まり、より高度な大会運営が求められていることから、安定的な大会運営を維持していくことが重要である。

平成23年度日本体育協会 競輪補助事業概要

for all

●平成23年度補助事業

- ①国民体育大会実施事業
- ②日本スポーツマスターズ実施事業
- ③シニア・リーダースクール実施事業
- ④情報誌スポーツジャスト発行事業
- ⑤日独スポーツ少年団同時交流事業
- ⑥スポーツ少年団交流大会事業
- ⑦スポーツ指導者育成事業
- ⑧スポーツ科学研究事業

●平成23年度補助金額

150,692,000円

①国民体育大会実施事業

- ・全国9ブロックで実施
- ・参加者数:41,635名



競技会場の表示



銃剣道競技の試合風景

② 日本スポーツマスターズ実施事業

- ・石川県各地の会場において、自転車競技を始めとする13競技を実施
- ・参加者数：7,850名
- ・実施日：平成23年9月16日～20日（5日間）

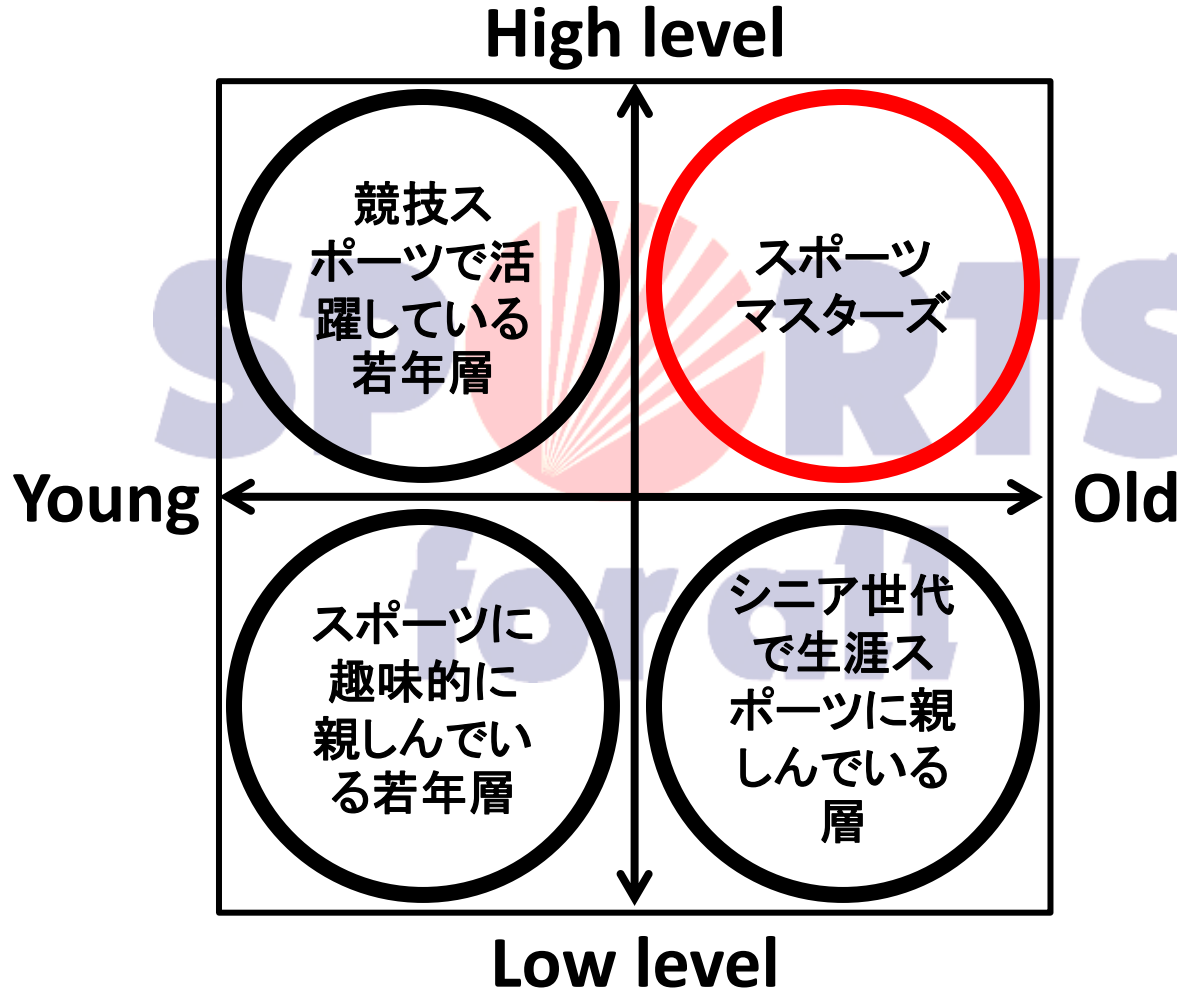


自転車競技スタート前の様子



空手道 型の披露

② 日本スポーツマスターズ実施事業



③シニア・リーダースクール実施事業

- ・国立中央青少年交流の家において、スポーツ少年団青少年リーダーを養成するための研修を実施
- ・参加者数：125名
- ・実施日：平成23年8月11日～15日（4泊5日）



講義風景



小学生を対象とした指導実践

④情報誌スポーツジャスト発行事業

- ・年10回、延401,000部を発行
- ・各地域の少年スポーツ活動の実態、少年スポーツ活動の実践的内容等を掲載



7月号表紙



9月号表紙

⑤ 日独スポーツ少年団同時交流事業

- ・スポーツ活動やテーマディスカッションを始めとする研修プログラムを実施

【受入事業】7月22日～8月12日(22日間)、ドイツ団30名

【派遣事業】7月20日～8月11日(23日間)、日本団 75名



日本団・アーチェリーに挑戦



ドイツ団・剣道体験

⑥スポーツ少年団交流大会事業

- ・岐阜県において、スポーツを中心とした野外・文化・学習活動等を実施
- ・参加者：全国のスポーツ少年団員、指導者 計351名
- ・実施日：平成23年8月5日～8日（3泊4日）



キャンプファイヤーの様子



スポーツ活動の様子

⑦スポーツ指導者育成事業

- ・スポーツ指導者の基礎資格「スポーツリーダー」の養成を目的に全国で講習会を実施
- ・実施コース数：47都道府県体育協会／218コース
- ・参加者数：13,109名



受講生の様子



講義風景

⑧スポーツ科学研究事業

＜高齢者の元気長寿支援プログラム開発事業 第3年次＞

- ・H22までに開発した危険要因別の運動プログラムに基づき、以下の作業・研究を行った。
- ・長期的視点による効果検証
- ・軽度介護者向けの重度化防止を目的としたプログラムの開発研究
- ・評価法およびプログラムが地域に根づくための普及方法に関する研究



運動プログラム
の講義風景

プレゼンテーション2

補助事業名

～検診車の整備補助事業～

社会福祉法人<sup>恩賜
財団</sup>済生会

本部事務局 事業部次長 百瀬 良彦

新潟県済生会三条病院 総務課長 有坂 洋

検診科主任 泉 泰一

平成23年度補助事業 自己評価書

番号	23-1-105
項番	1/1

補助事業者名	社会福祉法人 恩賜財団済生会		
補助事業名	検診車の整備補助事業	事業項目名	

1. 社会的課題と補助事業の関係整理

社会的課題 (最終目的)	状況	新潟県県央地域において住民検診、職域健診を当院が行っているが、平成8年度にJKA様の検診車整備補助以降、車輛の経年劣化が進み、突然の故障による検診の中止も心配され、今後も安定した検診事業を継続する上で早期の更新が必要となっている。
	補助事業で解決・改善を目指す	目指す姿



補助事業	目的 (中間目的)	良質画像の読影による検診の精度向上、被曝線量の低減による安全性の向上により、受診者の肺結核、肺がん、胃がん等の予防、各種疾病の早期発見に寄与する。
	受益者	新潟県県央地域の市町村における住民検診、職域健診の受診者
	実施内容	平成23年7月21日に指名競争入札を実施、機種選定委員会が希望する車種を予定額を下回って入札できた。納品、検収を12月内と予定していたが、被害日本大震災、タイの洪水被害による車輛部品の調達が大幅に遅れ、納品は平成24年1月26日に変更したが、更に遅れ、2月2日に納品、検収実施となった。車輛、検診機器それぞれ担当職員が業者と緻密な連絡を取り合い、これでも早い納品にできた。
	結果・成果	①年間の車輛稼働は予定した100日を上回り123日となった。生活習慣病健診に力を注いでいる結果。 ②2月末現在で目標値4,400人に対して3,874人。3月にも大口予定があり目標値程度が見込まれる。胃部検診は3,000人の目標値に対して2,252人。3月の見込みは目標値を少し下回る見通し。

2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

事業全体の総括的感想	東日本大震災、タイの洪水、当院水害被災(平成24年7月29日)等、度重なる自然災害による影響を受けながら、当初「年度内納品が難しい」といわれた中で、年度内納品と、2月中旬からの運用ができることとなった。慎重な検討を重ね、受診者の検診ニーズに多角的に応えられる機種を当院に整備できた。県央地域に当院の検診事業が益々貢献できるよう努めることが求められる。
今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】最新の検診車を機種選定委員会の希望どおり導入し、新しい運用計画にそって実施できることとなった。 【理由】機種選定委員会での多角的な検討と、放射線科医長、放射線科技師長を核とする情報収集と分析力、検診科スタッフの受診者ニーズに沿った設計への細部の提案等が新機種導入に反映
今回の事業の課題、改善すべきと思われる点	【課題】検診担当医師の増員。最新車輛・機器に伴う業務量の増加に対して専任医師1名の現状。 【改善策】業務量に見合った検診担当医師の増員が求められる。
事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点	受診者に新機種の性能を最大限発揮して健康保持・増進に役立てていただけるよう、検診事業の進展に努めたい。 多くの自然災害があっても、目標をしっかりと持って実現に努力すれば目標は実現することができることを学んだ。

(1) 医療関係

(平成25年 3月31日現在)

種 類 (種 別)	施設数	許可病床数 (床)					
		合計	精神	感染	結核	療養	一般
病 院 (第2種)	79	22,521	429	32	24	1,453	20,583
診 療 所 (第2種)	16	10	0	0	0	0	10
合 計	95	22,531	429	32	24	1,453	20,593

(2) 介護老人保健施設

(平成25年 3月31日現在)

種 類 (種 別)	施設数	入所定員	通所定員
介護老人保健施設 (第1種)	29	2,302	1,004

(3) 社会福祉事業関係

(平成25年 3月31日現在)

I. 施設の種類の種類 (種 別)		施設数	入所定員	通所定員
救護施設 (1) 救護施設 (第1種)		2	150	—
児童福祉施設 (2) 乳児院 (第1種)		6	303	8
	(3) 児童養護施設 (第1種)	1	80	—
	(4) 障害児入所施設 (第1種)	7	555	—
	(5) 保育所 (第2種)	7	—	670
	小 計	21	938	678
老人福祉施設 (6) 養護老人ホーム (第1種)		3	175	—
	(7) 特別養護老人ホーム (第1種)	49	3,869	—
	(8) 軽費老人ホーム (第1種)	10	451	—
	(9) 老人デイサービスセンター (第2種)	41	—	1,364
	(10) 老人短期入所施設 (第2種)	1	30	—
	(11) 老人介護支援センター (第2種)	19	—	—
小 計	123	4,525	1,364	
障害者自立支援法 関連施設 (12) 障害者支援施設 (第1種)		5	262	245
	(13) 地域活動支援センター (第2種)	1	—	30
	(14) 福祉ホーム (第2種)	1	6	—
	(15) 盲人ホーム (第2種)	1	10	10
	小 計	8	278	285
合 計		154	5,891	2,327

II. 事業の種類 (種 別)		事業実施数	定 員
(1) 障害児通所支援事業★ (第2種)		7	187
(2) 障害児相談支援事業★ (第2種)		6	—
(3) 子育て短期支援事業 (第2種)		5	14
(4) 地域子育て支援拠点事業 (第2種)		2	—
(5) 一時預かり事業 (第2種)		2	—
(6) 老人居宅介護等事業 (第2種)		36	—
(7) 老人デイサービス事業 (第2種)		16	383
(8) 老人短期入所事業 (第2種)		48	573
(9) 小規模多機能型居宅介護事業 (第2種)		4	100
(10) 認知症対応型老人共同生活援助事業 (第2種)		4	63
(11) 複合型サービス福祉事業★ (第2種)		1	15
(12) 障害福祉サービス事業 (第2種)		55	1,183
(13) 一般相談支援事業★ (第2種)		4	—
(14) 特定相談支援事業★ (第2種)		7	—
(15) 移動支援事業 (第2種)		4	—
合 計		201	2,518

★=新設及び新規実施事業等

(4) 公益事業関係

(平成25年 3月31日現在)

種 類	施設数	事業 実施数	許 可 病床数 (一般:床)	定員(人)	定員(人)			
					合計	1 学年	2 学年	3 学年
(1) 看護師養成所	8	—	—	—	1,208	416	416	376
(2) 指定訪問看護ステーション	49	—	—	—	—	—	—	—
(3) 乳児地域交流事業	1	—	—	20	—	—	—	—
(4) 自動車事故対策機構法の療護センター	1	—	50	—	—	—	—	—
(5) 企業委託型保育サービス	1	—	—	30	—	—	—	—
(6) 居宅介護支援事業	—	80	—	—	—	—	—	—
(7) 訪問入浴介護事業	—	8	—	—	—	—	—	—
(8) 福祉用具貸与事業	—	2	—	—	—	—	—	—
(9) 在宅生活復帰支援住居提供事業	—	1	—	34	—	—	—	—
(10) 福祉有償運送事業	—	2	—	—	—	—	—	—
(11) 過疎地有償運送事業	—	1	—	—	—	—	—	—
(12) 地域包括支援センター	21	—	—	—	—	—	—	—
(13) 有料老人ホーム	1	—	—	34	—	—	—	—
(14) 発達障害者支援センター	1	—	—	—	—	—	—	—
(15) 地域生活定着支援センター	3	—	—	—	—	—	—	—
(16) 日中一時支援事業	—	6	—	15	—	—	—	—
合 計	86	100	50	133	1,208	416	416	376

施設数及び事業実施数 総計	364	301
---------------	-----	-----

Home

濟生丸の概要

船航計画

配船計画

診療(検診)計画一覧

活動記録・メディアの紹介

活動記録等



取材や見学・実習をご希望の方へ

濟生丸での見学、実習(研修)やマスコミ取材のご相談はこちらから

お申込みフォーム

お知らせ

Back Number

2013/05/02

4月8日「濟生丸」新船の起工式が執り行われました。

2013/05/02

新船建造計画を更新しました。

2013/03/15

2013年度診療計画を更新しました。診療計画はカレンダーで確認できます。

2013/03/15

新船建造計画のページを追加しました。

リンク

- 岡山済生会総合病院
- 済生会広島病院
- 済生会呉病院
- 香川県済生会病院
- 済生会松山病院
- 済生会今治病院
- 済生会今治第二病院
- 済生会西条病院

濟生丸の概要

濟生丸の理念と基本方針

巡回診療船「濟生丸」理念

瀬戸内海島嶼部の 医療に恵まれない人々が 安心して暮らせるよう 医療奉仕につとめます

▲このページの先頭へ

基本方針

1. 島の特性を考慮した予防医学を重視し、島民が「自分の体は自分で守る」ことを支援します
2. 海をわたる病院として、近隣の医療機関と協力し、最善の治療が受けられるよう速やかな対応を行います
3. 関係の行政機関と連携し、島民の医療環境の改善を図ります
4. 住民との対話を尊重し、瀬戸内海島嶼部医療のあるべき姿を考えます
5. 瀬戸内海に限らず国内で災害が発生したときは、災害援助診療船として、可能な限りの物的、人的緊急支援をします
6. 医療関係者が予防医学やへき地医療のあり方を学ぶ地域医療研修の場としての役割を担います

▲このページの先頭へ

濟生丸の活動



瀬戸内海には、数多くの島が点在していますが、その多くは島内に医療機関を持たない無医島です。そんな医療に恵まれない人々の手助けをするために、済生会創立50周年を記念し、昭和37年に診療船として建造されたのが、濟生丸です。

現在は、平成2年に就航した三世号が岡山・広島・香川・愛媛4県の瀬戸内海および豊後水道にうかぶ65の島々を、各県済生会病院の医師や看護師、検査技師等の診療班が乗りこみ、診療・検診に巡回しています。

船員は濟生丸に常駐し、岡山・広島・香川・愛媛の4県をめぐります。診療時は、島の方々安全に乗船できるよう手助けもしております。

—(情報誌「やわらぎ」にて)—[海を渡る病院「濟生丸」の活動]

▲このページの先頭へ

濟生丸の歴史

今年(平成24年)で、濟生丸が誕生してから50年たちました。

医療に恵まれない地域を対象に、疾病の診療および保健予防などを実施することを目的に活動を開始しました。死亡上位を占めるがん、脳出血、心疾患など救急措置は、あらかじめ予防医学的措置をとり、近くの医療機関への治療依頼など総合的医療対策を確立しています。診療開始当時は濟生丸一世号が活躍していました。現在は濟生丸三世号が航行しています。



▲このページの先頭へ

濟生丸がめぐる島々

約10日毎に岡山、広島、香川、愛媛の4県を順番にめぐり、運航しています。



平成23年4月1日現在

岡山	鹿久居島・鴻島・頭島・大多府島・犬島・石島・高島・白石島・北木島(楠・豊浦・西地区・大浦)・真鍋島・六島・飛島
広島	小佐木島・百島(泊・福田)・生野島・長島・三角島・大崎下島(沖友)・斎島・大芝島・塩谷(呉市)・倉橋島(大迫)・鹿島(上・下・中)・上蒲刈島(大浦・宮盛・向・田戸)・情島
香川	男木島・女木島・本島(泊・小阪・福田)・広島(江の浦・青木・茂浦)・手島・小手島・牛島・櫃石島・岩黒島・与島・伊吹島・粟島・志々島・高見島・佐柳島(長崎・本浦)・直島(本村・宮の浦)・小豆島(堀越・橘・岩谷・当浜・田ノ浦・神浦・谷尻・二面・室生)・豊島(家浦・唐櫃・甲生)・沖ノ島・小豊島
愛媛	睦月島・怒和島(上怒和・元怒和)・津和地島・二神島・野忽那島・安居島・青島・釣島・戸島・嘉島・日振島・竹ヶ島・大島(八幡浜市)・佐島・大島(友浦・余所国)・津島・伯方島・大三島(野々江・盛)・大下島・生名島

[▲このページの先頭へ](#)

濟生丸の設備

濟生丸の船内には様々な診療・検診を行う設備が整っています。船内で腹部超音波、眼底検査、レントゲン撮影なども行っています。「海をわたる病院」とも言われています。



●操舵室…船員が船の運転をします



●採血を行います



●船内で心電図もとれます



●眼底カメラも使用します



●診察を行います



●尿検査室です



●船底部ではレントゲン撮影を行います

[▲このページの先頭へ](#)

濟生丸三世号の構造

■ 構造、性能

船形	球状型船首、バウスラスタ―装備、2基2軸船
材質	鋼製及びアルミ合金製(上甲板以上)
全長	33m
垂線間長	28m
型巾	7m
型深	3m
満載喫水	2m
総トン数	166トン
主機	ヤンマーディーゼル機関 500PS
発電機関	ヤンマーディーゼル 100PS 2基
発電機	80KVA×AC225V×60HZ×3φ 1,800rpm
航海速力	12ノット
定員	船員5、診療班12、その他12

■ 装備

湾岸装備	鋼製ランプゲート、巾1.8m×長5.5m
交通艇	FRP製、25PS船外機付、定員5
レーダー	JMA-3910-6型、15インチ10KW一式
その他	放送、空調、救命各設備

[▲このページの先頭へ](#)

診療・検診

岡山、広島、香川、愛媛県で統一して実施している検査項目は下記のとおりです。

船内で診療・検診を行ったり、島に上陸して行うこともあります。また、島の公民館などで健康教室を行うこともあります。右の写真は



そのときの様子ですが、島の皆さんが医師の話に熱心に耳を傾けていらっしゃいます。



■1) 検診として行うもの

区分	項目	検診内容
胸部疾患(1)	結核検査(間接撮影)	胸部間接レントゲン
	結核検査(直接撮影)	胸部直接レントゲン
胸部疾患(2)	肺がん検査	肺がん検査(フィルム二重読影)
		喀痰検査(痰細胞診)
消化器疾患	胃がん検査(間接撮影)	胃部間接レントゲン
循環器疾患(1)	基本健康診査	身体計測、血圧測定、問診、検尿、心電図、診察、指導、血液検査、(貧血・脂質・肝機能・腎機能・血糖)
	前立腺がん検査	血液検査(PA検査)
循環器疾患(2)	経過観察・フォローアップ (保険診療分除く)	身体計測、血圧測定、問診、検尿、心電図、診察、血液検査、(貧血・脂質・肝機能・腎機能・血糖)眼底カメラ、GTT検査、指導(栄養・保健)など
		腹部超音波検査
		超音波による骨密度検査
婦人科疾患	子宮がん検査	内診・細胞診検査・指導
外科系疾患(1)	大腸がん検査	便免疫学的潜血反応検査
外科系疾患(2)	乳がん検査	視診・触診
	泌尿器科検査	
特定診療科	眼科	健康・医療相談など
	耳鼻咽喉科	
	整形外科	
	皮膚科	
一般検診	小児科	健康診断的なもの
	歯科	

■2) 診療として行うもの

区分	項目	検診内容
内科診療 (一般診療)	受診者毎に診療科目は異なる	投薬・注射・検査・レントゲン検査・その他

▲このページの先頭へ

救援活動

平成7年1月17日に発生した阪神大震災当日、愛媛県松山港に停泊していた濟生丸は急遽巡回診療を中断し、救援活動に参加しました。



1月18日深夜、救援物資を積むため新岡山港(岡山県)に回航し(写真右)、翌19日に神戸新港へ入港しました。
岡山・広島・香川・愛媛・鳥取・島根・山口・福岡・熊本県済生会による済生丸班を結成し、長田地区にて診療を行いました。



▲このページの先頭へ

診療ならびに関係機関

社会福祉法人恩賜財団済生会
支部

岡山県済生会	岡山済生会総合病院
広島県済生会	広島病院
	呉病院
香川県済生会	香川県済生会病院
愛媛県済生会	松山病院
	今治病院
	今治第二病院
	西条病院
	高浜診療所



事業所連絡先

瀬戸内海巡回診療事業推進事務所

〒700-8511
岡山県岡山市北区伊福町1丁目17番18号
岡山済生会総合病院内
TEL. 086-253-6071
FAX. 086-252-7375

瀬戸内海巡回診療船舶管理事務所

〒761-8076
香川県高松市多肥上町1331番地1
香川県済生会病院内
TEL. 087-868-1551 (病院代表)
FAX. 087-868-9733

H24年度 事業報告（抜粋） 公衆衛生・保健予防活動

- 検診車による院外検診は、前年度に比べ、実施延回数、受診者延数ともに大幅に増加した。その他の院外検診は、前年度に比べ、実施延回数、受診者延数ともに大幅に減少した。
- 院内検診及び人間ドックの受診者延数は、前年度に比べ若干増加したが、予防接種の受診者延数は、若干減少した。

項 目	年 度			
	平成24年度	平成23年度	増 減	前年度比 (%)
I. 院外検診				
1. 検 診 車				
(1) 実施延回数(回)	720	617	103	116.7
(2) 受診者延数(人)	52,697	39,381	13,316	133.8
2. そ の 他				
(1) 実施延回数(回)	309	347	△ 38	89.0
(2) 受診者延数(人)	10,561	21,529	△ 10,968	49.1
II. 院内検診受診者延数(人)	480,472	460,253	20,219	104.4
III. 予防接種受診者延数(人)	165,894	168,339	△ 2,445	98.5
IV. 人間ドック受診者延数(人)	177,111	174,073	3,038	101.7
V. 衛生教育等				
1. 患者及び家族対象				
(1) 実施延回数(回)	5,777	5,884	△ 107	98.2
(2) 従事員延数(人)	11,693	11,551	142	101.2
2. 一般対象				
(1) 実施延回数(回)	549	469	80	117.1
(2) 従事員延数(人)	1,697	1,713	△ 16	99.1

瀬戸内海巡回診療

- 平成24年度は、4支部（岡山・広島・香川・愛媛）共同事業となって2年目である。「済生丸」の配船日数は336日（出動日数217日）であり、岡山・広島・香川・愛媛の4県にて対象島嶼数64島と1地区の人口21,942人（対前年度比2,164人減）に対し、受診者延数は9,435人（同807人減）であった。
- 総経費は116,487千円（同5,641千円増）であり、うち、国及び4県を合わせた補助金は53,217千円（同3,656千円増）で、補助金と総経費の差引額63,270千円（同1,985千円増）を4支部が負担した。

項 目	年 度			
	平成24年度	平成23年度	増 減	前年度比 (%)
I. 対象島嶼数(島)	64	64	0	100.0
II. 対象島嶼人口(人)	21,942	24,106	△ 2,164	91.0
III. 出動延日数(日)	217	231	△ 14	93.9
IV. 受診者延数(人)	9,435	10,242	△ 807	92.1
V. 補 助 金(千円)	53,217	49,561	3,656	107.4
VI. 総 経 費(千円)	116,487	110,846	5,641	105.1
VII. 差引不足額(4支部負担額)(千円)	63,270	61,285	1,985	103.2

この日「一番」の札を取った松崎三郎さん(四)も、カンを見つけてもらった人。「五十代の頭ですよ。胃力など分かって。それで岡山の病院で手術をして。四分の三も取ったんですけど、それから二十年以上ずっと健康です。今、ゴルフやったりカラオケやったり、島のみんなど遊べるのも、養生丸にカンを見つけてもらったおかげですよ」

七時半。ようやく診察が始まった。レントゲンから始まって、若い女性で来院する。養生系系列の看護学校で学ぶ看護生たちだ。「最上級生の三年生は必ず一度参加します。島の医療について考える機会を持って欲しいですから。三年生は五十二名います。それを九グループに分けて養生丸に乗船させています」(引継教師の山形真由美さん)

船内ではまず身長、体重を計測し、次いで血圧を測定する。緊張気味の看護学校生に向かって、島の男性老人が声をかける。「いやあ、お嬢さんたちを見たら、駄目だ、血圧が上がってしまった」

来る男性、来る男性、同じことを言うので、次第に看護学校生の表情も緩んできた。採血の後は、急階段を下りなるといけな。レントゲンは重いので、船の底に置いています。上り下りする階段が狭くて危いから、特にお年寄りには注意。この船は三世号ですが、四世号ではエレベーターを付けてもらう予定です。(放射線技師の土山運草さん)

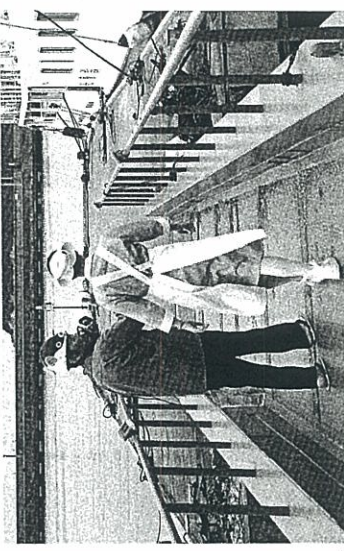
レントゲンの後は心電図を取り、内科医による診察を受けて終了する。

検診を終えた安良田さんが、つぶやいた。「私は、今日が最後の検診だから」その声に、医療スタッフが暫く、反響する。「なにを言ってるんですか。来年もちゃんと来くれなくても困りますよ」

安良田さんは、嬉しそうに微笑んだ。

瀬戸内海の病院船

スタッフは前日に島に入り、民泊に泊まる。早朝に起き出し、準備を整えて船に向かう



岡山済生会総合病院のへき地医療支援について

岡山済生会総合病院では、済生丸の運営のほかにも、岡山県へき地医療支援機構の運営を受託し、検診車による巡回診療や医師派遣等の支援策を行っています。

H24年度 へき地医療拠点病院としての事業実績

【県南東部圏域】

吉備中央町立診療所 医師派遣

診療所名	診療科	派遣回数	受診延人数
下加茂診療所	眼科	27	563
	皮膚科	47	1,534
	計	74	2,097
新山診療所	内科	47	918
合計		121	3,015

済生丸 診療・検診

・島民延べ受診者数

市町村名	実施地区	巡回回数	受診延人数
備前市	鹿久居島	5	31
	鴻島	4	64
	頭島	5	509
	大多府島	4	136
	計	18	740
岡山市	犬島	3	108
玉野市	石島	3	154
合計		24	1,002

・島民年齢別受診者数(人口:2012年12月末現在)

島名	備前市										岡山市		玉野市		合計	
	鹿久居島		鴻島		頭島		大多府島		計		犬島		石島		合計	
年齢 \ 人口	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数
20～29	0	0	22	5	27	3	0	0	4	31	4					
30～39	0	0	13	3	20	1	0	1	0	29	1					
40～49	0	0	28	10	41	14	1	0	10	8	52	22				
50～59	0	0	47	25	61	34	3	2	12	9	76	45				
60～69	5	5	79	47	113	68	9	4	22	15	144	87				
70～79	2	1	91	48	134	68	26	10	14	11	174	89				
80～89	5	0	68	10	92	14	10	1	18	3	120	18				
90～																
計	12	6	348	143	488	201	50	17	88	47	626	265				

陸地部検診

・市町村別延べ受診者数

市町村名	検診名	実施回数	受診延人数
吉備中央町	特定健康診査等	11	553
	胃がん	16	724
	大腸がん	16	813
	乳がん(視触診のみ)	6	139
	マンモグラフィ	6	457
	前立腺がん	11	154
	肝炎検査	10	113
合計		66	2,840
(旧)建部町	肺がん	4	685
	胃がん	5	243
	乳がん(視触診のみ)	3	57
	マンモグラフィ	3	95
	子宮がん	3	135
合計		18	1,215
総合計		84	4,055

・市町村別年齢別受診者数(人口:2012年12月末現在)

市町村名	吉備中央町		建部町		合計	
	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数
20～29	1,159		470	5	1,629	48
30～39	1,126	43	579		1,705	
40～49	1,180	103	695	38	1,875	141
50～59	1,669	168	552	87	2,221	255
60～69	2,038	495	1,072	270	3,110	765
70～79	1,721	493	916	288	2,637	781
80～89	1,612	178	791	121	2,403	299
90～	375		175		550	
計	10,880	1,480	5,250	809	16,130	2,289

【県南西部圏域】

笠岡市 医師派遣

診療所名	診療科	派遣回数	受診延人数
真鍋島診療所	内科	24	133

済生丸 診療・検診

・島民延べ受診者数

市町村名	実施地区	巡回回数	受診延人数
笠岡市	高島	4	93
	白石島	9	449
	北木島	9	317
	真鍋島	6	253
	六島	5	91
飛島	5	84	
合計		38	1,287

・島民年齢別受診者数(人口:2012年12月末現在)

島名	高島		白石島		北木島								真鍋島		六島		飛島		合計			
	人口	受診者数	人口	受診者数	西		楠		大浦		豊浦		計		人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数	人口	受診者数
20～29	6	1	29	0	9	0	0	0	5	0	7	0	21	0	7	1	2	0	1	0	66	2
30～39	7	1	11	0	12	0	0	0	12	0	5	0	29	0	3	1	3	0	3	0	56	2
40～49	4	0	31	3	41	2	5	0	18	1	12	0	76	3	15	5	5	0	5	0	136	11
50～59	13	2	72	17	46	1	3	0	29	1	25	1	103	3	31	6	8	0	9	4	236	32
60～69	15	4	109	45	72	8	8	0	96	10	36	4	212	22	37	9	17	9	23	7	413	96
70～79	23	9	115	61	96	12	15	0	123	22	48	6	282	40	70	42	20	6	34	8	544	166
80～89	30	12	190	50	82	3	26	1	106	6	43	9	257	19	76	22	20	5	41	12	614	120
90～	30	12	190	50	82	3	26	1	106	6	43	9	257	19	76	22	20	5	41	12	614	120
計	98	28	557	176	358	26	57	1	389	40	176	20	980	87	239	85	75	20	116	31	2,065	427

【高梁・阿新圏域】

陸地部検診

市町村名	検診名	実施回数	受診延人数
新見市	特定健康診査等	38	2,666
	胃がん	39	1,914
	肺がん	38	3,437
	大腸がん	39	3,209
	乳がん(視触診のみ)	19	147
	マンモグラフィ	19	1,363
	前立腺がん	38	837
肝炎検査	5	7	
合計		235	13,580

・市町村別年齢別受診者数(人口:2012年12月末現在)

市町村名	新見市	
年齢 \ 人口	人口	受診者数
20～29	2,743	137
30～39	3,025	
40～49	3,063	212
50～59	4,406	449
60～69	5,153	1,299
70～79	4,789	1,767
80～89	3,958	816
90～	893	
計	28,030	4,680

【津山・英田圏域】

山間へき地 巡回診療・検診

市町村名	診療科	巡回回数	受診延人数
美 咲 町	耳鼻咽喉科	2	9
	眼 科	2	12
	計	4	21
久米南町	耳鼻咽喉科	2	11
	眼 科	2	22
	計	4	33
合 計		8	54

陸地部検診

市町村名	検 診 名	実施回数	受診延人数
西栗倉村 (12地区)	特定健康診査等	5	278
	胃 が ん	5	207
	肺 が ん	4	322
	大腸がん	5	270
	乳がん (視触診のみ)	2	16
	マンモグラフィ	2	90
	子宮がん	2	88
	前立腺がん	5	51
	肝炎検査	5	10
	骨密度検査	2	47
合 計		37	1,379

・市町村別年齢別受診者数(人口:2012年12月末現在)

市町村名	西栗倉村		
	年齢 \ 人口	人口	受診者数
20 ~ 29	150		17
30 ~ 39	145		
40 ~ 49	134		28
50 ~ 59	225		73
60 ~ 69	221		112
70 ~ 79	191		118
80 ~ 89	188		91
90 ~	43		
計	1,297		439

済生会生活困窮者支援なでしこプラン2010
平成24年度事業報告

- 済生会生活困窮者支援事業は、無料低額診療事業の主たる対象者である被保護者等のみならず、ホームレス、刑余者、DV被害者等を広く対象として、行政や支援団体等と連携しつつ、訪問診療、健康診断、健康・医療相談等の支援を行う事業である。
- 平成22年度を初年度として3ヵ年計画で実施する。
- 38支部（宮城県、長野県支部を除く）で、263事業（前年度比20事業増）、取扱延数約10万6千人（前年度比約7千人減）であった。

支援助対象・内容	平成24年度		平成23年度		増減	
	事業数	取扱延人数	事業数	取扱延人数	事業数	取扱延人数
I. ホームレス等	34	23,482	39	30,016	△5	△6,534
(1) 診療	9	21,497	8	27,117	1	△5,620
(2) 健康診断	6	1,367	10	1,138	△4	229
(3) 健康・医療相談	11	303	10	289	1	14
(4) その他	8	315	11	1,472	△3	△1,157
II. DV被害者等	16	456	11	237	5	219
(1) 診療	7	72	3	10	4	62
(2) 健康診断	2	16	2	80	0	△64
(3) 健康・医療相談	4	260	4	81	0	179
(4) その他	3	108	2	66	1	42
III. 障害者・高齢者	75	56,895	48	54,661	27	2,234
(1) 診療	7	15,759	3	2,428	4	13,331
(2) 健康診断	14	3,248	12	3,627	2	△379
(3) 健康・医療相談	28	8,121	14	5,595	14	2,526
(4) その他	26	29,767	19	43,011	7	△13,244
IV. 刑余者等	60	7,339	52	6,220	8	1,119
(1) 診療	14	585	11	356	3	229
(2) 健康診断	24	1,796	28	1,808	△4	△12
(3) 健康・医療相談	10	345	10	3,953	0	△3,608
(4) その他	12	4,613	3	103	9	4,510
V. 外国人	18	1,709	12	710	6	999
(1) 診療	6	203	3	138	3	65
(2) 健康診断	5	526	3	479	2	47
(3) 健康・医療相談	3	93	5	67	△2	26
(4) その他	4	887	1	26	3	861
VI. 母子児童	9	604	11	740	△2	△136
(1) 診療	1	67	1	26	0	41
(2) 健康診断	3	379	5	393	△2	△14
(3) 健康・医療相談	4	131	3	90	1	41
(4) その他	1	27	2	231	△1	△204
VII. その他	51	15,594	70	20,517	△19	△4,923
(1) 診療	3	383	8	4,441	△5	△4,058
(2) 健康診断	2	2,271	4	392	△2	1,879
(3) 健康・医療相談	24	3,515	29	2,629	△5	886
(4) その他	22	9,425	29	13,055	△7	△3,630
合計	263	106,079	243	113,101	20	-7,022
内訳						
(1) 診療	47	38,566	37	34,516	10	4,050
(2) 健康診断	56	9,603	64	7,917	△8	1,686
(3) 健康・医療相談	84	12,768	75	12,704	9	64
(4) その他	76	45,142	67	57,964	9	△12,822

済生会「なでしこプラン2010」

大阪あいりん地区で無料健診事業スタート

済生会は、今年度から開始した生活困窮者支援「なでしこプラン2010」(3カ年計画)の一環として大阪市内の釜ヶ崎(あいりん)地区で生活する人々を対象とした無料健診事業を9月13日から開始した。17日までの5日間で約1,000人の健康診断を行う。



釜ヶ崎健診事業は、NPO法人釜ヶ崎支援機構、NPOヘルスサポート大阪の協力を得て、済生会支部大阪府済生会の職員によって行われる。釜ヶ崎支援機構が実施する府や区などの特別清掃事業に従事する人々が対象で、清掃作業の割り当ては1日に約200人となっており、5日間の実施期間中に約1000人が健康診断を受けられる。

あいりん地区のシェルターや簡易宿泊所で暮らす、住所を持たない人々の疾病予防、健康増進を支援するのが目的で、傘下8病院の職員が問診・血圧測定・採血による血液検査を行う。参加した医療従事者は医師4人、看護師25人、ケースワーカーなどで、事務スタッフも10人参加した(14日)。

健診は、釜ヶ崎支援機構の特別清掃事業集合事務所で朝8時に始まる。検査を終えた人からその日の清掃現場に向かうため、おおよそ10時ごろに終わるスケジュールだ。受診者は住所を持たないため、健診結果は1週間後に密封した上で機構を通して渡される。「異常なし」「経過観察」「要治療」の3段階で評価されるが、健診当日に血圧が高かったり、熱中症や脱水症の症状があるなどの理由で、その日の就労にドクターストップがかかる人もいる。初日(13日)の要治療者数は24人、2日目(14日)も19人を数えた。13日の健診中には救急搬送もあった。

要治療と判断された場合、大阪市立更正相談所から発行される1日医療券を利用して、あいりん地区内にある社会医療センターや済生会病院で治療を受ける。長期的な医療が必要な場合には生活保護の手続きが必要となるが、「認定されるまで待てない患者については済生会の無料低額診療事業が受け皿になることもある」(溝口和彦・大阪府済生会常務理事)。

要治療と判断された場合、大阪市立更正相談所から発行される1日医療券を利用して、あいりん地区内にある社会医療センターや済生会病院で治療を受ける。長期的な医療が必要な場合には生活保護の手続きが必要となるが、「認定されるまで待てない患者については済生会の無料低額診療事業が受け皿になることもある」(溝口和彦・大阪府済生会常務理事)。

高血圧、糖尿病など高罹患率 結核感染の温床にも

ヘルスサポート大阪の井戸武實常任理事によると、「血圧はべらぼうに高い。200mmHg以上の人はいく人もいます」と話す。昨年12月に実施したプレ健診を受けた204人では、200mmHg以上の人11人発見され、就労できずに医療機関を受診した。検査結果で「要治療」と判定された人は受診者の17%に当たる35人だった。

高血圧に続いて、糖尿病や肝機能障害も多い。井戸氏の印象によると喫煙率は8~9割に達する。「意外かもしれないが、炭水化物をたくさん食べる人もいるため糖尿病は多い。酒・タバコは彼らにとって欠かせない日々の楽しみ」と話す。お湯を自由に使えるシェルターの利用者は、カップ麺ばかりを食べるので塩分が過剰になっているとも指摘されている。

結核の猛威も衰えない。わずか0.62平方キロの地域に200人弱の罹患者が発見されている。10万人当たりの罹患者数でみると日本全体では19人だが、ここでは32倍の653人となる。X線検査での発見率は全国平均の175倍ともいう。シェルターや簡易宿泊所といった閉鎖空間が、結核拡大の温床となっており、貧困と同様に改善のメドは立っていない。

結核の猛威も衰えない。わずか0.62平方キロの地域に200人弱の罹患者が発見されている。10万人当たりの罹患者数でみると日本全体では19人だが、ここでは32倍の653人となる。X線検査での発見率は全国平均の175倍ともいう。シェルターや簡易宿泊所といった閉鎖空間が、結核拡大の温床となっており、貧困と同様に改善のメドは立っていない。

炭谷茂 済生会理事長の話

「医療・福祉の最終ラインを守るのは我々だ」



14日の釜ヶ崎健診事業には、炭谷茂、済生会理事長が現地入りした。先頭に立って推進してきた炭谷氏は本紙に「医療・福祉の最終ラインを守るのはわれわれだ」と語った。

済生会の本来的使命「施薬救療」は医療・福祉サービスに恵まれない人々のためにある。この原点を大切にしないのであれば、解散してもいいくらいに思っている。その思いから無料低額診療事業に加えて、スラム街やホームレスの人々たちのための「なでしこプラン2010」を作り、その一環として釜ヶ崎健診事業をスタートできた。昨日も20人余りの要治療者が社会医療センターや済生会病院で治療を受けた。命にかかわるような大きな病気や後遺症を防げるのではないかと考える。

済生会ではスラム街対策だけでなく、刑務所出所者への医療提供も今年度から開始する。今回の健診事業は「済生会ここにあり」という姿勢が形になる第一歩となった。医療・福祉の最終ラインを守るのはわれわれ済生会だ。われわれがやらずに誰がやるという思いだ。

済生会ではスラム街対策だけでなく、刑務所出所者への医療提供も今年度から開始する。今回の健診事業は「済生会ここにあり」という姿勢が形になる第一歩となった。医療・福祉の最終ラインを守るのはわれわれ済生会だ。われわれがやらずに誰がやるという思いだ。

路上生活者を巡回診療

2010年03月13日



ホームレス生活の男性の体に聴診器をあてる多田医師。冗談も言い、和やかな雰囲気作りを意識していた＝熊本市水前寺6丁目

病院での診療を受ける機会がほとんどないホームレス生活の人々を診察しようと、熊本市の済生会熊本病院が昨年末から同市のNPO法人熊本ホームレス自立支援の会と協力し、巡回診療をしている。失業によるホームレス生活で健康を損ない、仕事につく機会を失うという悪循環を断ち切りたいという。(岡田将平)

2月後半の6回目の巡回診療を見学した。支援の会の相談室が臨時の診療スペースとなり、この日の担当の多田修治・消化器病センター部長らが一人ひとりに「調子はどうですか」と声をかける。「息切れがする」「肩が痛い」などの訴えを聴き、「ちょっと血圧が高いですね。お酒は飲みますか」と語りかける。初診の人は、緊急時に病院で対応できるようにカルテも作る。

ある男性は高血圧による腎機能傷害で足が腫れていた。前回までの診療で薬をもらい腫れは引いたが、この日は「油断するとまた腫れますよ」と注意を受けていた。

この日は約2時間で12人が受診。高血圧の人がめだつ。多田医師は「食事が少なく、味の濃いものが多かったり、食事が不規則だったりすることが原因でしょう」とみる。

済生会熊本病院が巡回診療を始めたのは昨年末、副島秀久院長が自立支援の会を訪れたことがきっかけ。「お金がないから受診をあきらめる」という人が多いと知り、「継続的に診察した方がいい」と思ったという。副島院長は「仕事がない人が病気になったら、職を見つけるのはさらに難しくなる。もっと早く病院にかかっていたらよかったという人もいます」。開始から2カ月弱の間で、巡回診療をきっかけに入院した人も3人いるという。

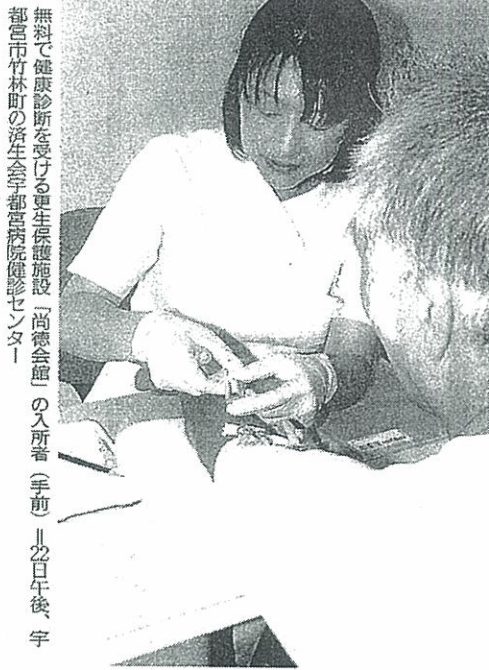
診療費は病院が負担。社会福祉法人の済生会熊本病院には、ホームレス生活など経済的困窮者の医療費を全額または一部免除する無料低額診療事業がある。副島院長は「これまでは病院内の医療相談室で対応していたが、外に出向いていくことで支援の輪が広がると思った」と話す。

生活困窮者を医療支援

県内初の無料健康診断

済生会宇都宮病院

済生会宇都宮病院が社会貢献の一環として、生活困窮者支援事業に乗り出した。今月、身寄りのない元受刑者や保護観察中の人を対象とした県内初の無料健康診断を実施。NPO法人「県就労支援事業者機構」と協力し、県内2更生保護施設の入所者計約30人を診断した。同病院の担当者は「生活困窮者が増え、医療福祉とつながらない人が増えている。健診は一つの切り口だが、まずは自分の体調を知ってもらいたい」と話している。
(加藤 覚)



無料で健康診断を受ける更生保護施設「尚徳会館」の入所者(手前) 22日午後、宇都宮市竹林町の済生会宇都宮病院健診センター

NPOと協力し30人

送迎バスから降りた入所者が22日午後、同病院健診センターに続々と姿を現した。「右腕が痛いかな。それとも左腕にするかな」。白髪のある男性入所者(64)は、照れ笑いしながら採血に臨んだ。

検査は内科検診や胸部エックス線、心電図など9項目。すべての項目を終えたこの男性は「細かく診てもらえて良かった。自分の病気を見つげることができたから、助かるよ」と感謝の言葉を残した。

事業は、同病院が所属する社会福祉法人「恩賜財団済生会」が策定した「生活困窮者支援策」で、今年2010の一環。本年度を初年度とした3カ

年計画で、全国の関係機関がホームレスや失業者、ドメスティックバイオレンス(DV)被害者らの健康相談や診療を行う。

同病院の健診センターを訪れたのは、更生保護施設「尚徳会館」(宇都宮市)と「栃木明徳会」(栃木市)に入所する男女計27人で、年齢は26〜82歳。健康問題を抱える人が少なくないほか、生まれて初めて健診を受けた人もいたという。

刑務所出所者らの就労支援を行う「県就労支援事業者機構」も送迎バスを提供するなど全面的に協力。宇都宮保護観察所の北條靖統括保護観察官(46)は「入所者は借金で住所登録できなかったり、健康保険証がなかったりと、ハンデを抱えている。食べられるにも困る人もいて、健康管理が行き届いていない」と支援の必要性を訴えた。

同病院地域連携課の荻津守課長(50)は「入所者のみなさんに喜んでもらえた。今後も無料健診を継続することにも、病気が見つかった人への支援も考えていきたい」と今後の計画を語った。

県内在住外国人 無料で健康診断

岡山東RC



無料健康診断で血液検査を受ける外国人ら

岡山東ロータリークラブ(西本晃会長)は17日、岡山市北区奉還

通訳を通して内科、小児科医ら8人に症状を

中国や韓国、フィリピン、ベトナムなど9カ国の約130人が参加。血液、胸部レントゲン、尿検査を受け、

町の岡山済生会総合病院健診センターで、県内在住の外国人を対象に無料の健康診断と相談会を開いた。

留学や就

労などで県

内には約2

万3千人の

外国人がいるが、言葉

の壁や経済負担などから受診に消極的な人も

多く、会員に医師の多い同クラブが昨年度に

続いて企画した。

訴えたり相談し、助言を受けた。

岡山市の企業で通訳

をしている中国出身の季曉燕さん(36)は「無料なので助かる。どこも悪くなさそうで良かった」と話していた。

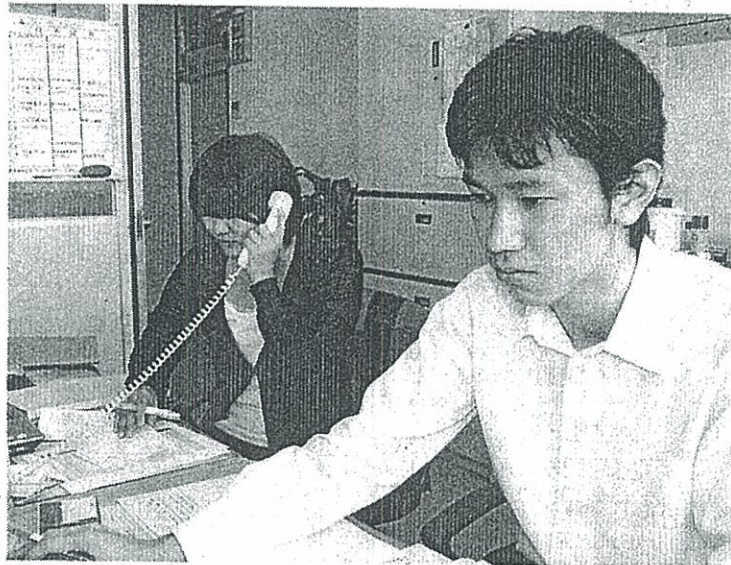
(久岡広和)

刑務所などを出所後、高齢や障害のため自立生活が困難な人を支援する県地域生活定着支援センター（大分市府内町）が開設されて4カ月がたった。相談員は支援対象者が適切な福祉サービスを受けられるようにと奔走しているが、まだ手探りの状態。家族などの保証人がいなかったり、偏見などのため、受け入れ先がなかなか見つからないなど、支援の難しさが浮き彫りになっている。

偏見：難しい受け入れ先探し

高齢、障害のある出所者

自立支援手探り続く



元受刑者らの支援に取り組む相談員＝大分市

県センター奔走4カ月

31日に「シンポ」

大分大学開放イベント特別シンポジウム「少年・障害者が県地域生活定着支援センターの協力で開く。

の裏にある真実」が31日午後1時から、大分市の巨野原キャンパスである。同大

元暴走族総長で更生保護講演やディスカッションがある。参加無料。問い合わせは同大学社会連携推進課（☎097・554・8533）。

センターは県済生会が県まられたり、対象者が近くへの委託を受けて運営。社会福祉士などの資格を持つ相談員ら4人が支援対象者と面接し、受け入れ先を探したり福祉サービスを利用できるようにするコーディネート業務や、その後の生活状況の確認などに当たっている。対象者の生活を安定させることも、再犯を減らすことが目的だ。

センターによると、これまで支援対象者となったのは13人（9月末現在）。うち7人は既に受け入れ先の病院や福祉施設、アパートなどが決まった。

最大の課題は受け入れ先の確保。精神疾患があり、精神科病院への入院が望ましい対象者が「対応が難しい」と病院側から入院を拒

相談員からは「対象者の本心が分からない」「適切な支援ができていないか不安」などの声も上がっている。

センターの存在と業務内容を知らなかったため、これまで70回以上、行政機関や福祉施設を訪問した。甲斐センター長は「いまは暗中模索の段階。対象者の笑顔を見ることを励みに、職員一丸となって努力していきたい」と話している。

県外の精神科病院に受け入れられた対象者が、入院から1カ月後に自殺したケースも。甲斐祐治センター長は「入院後のかかり方が足りなかった。県外のセンターとの協力体制も強化していかなければならないと感じた」と話す。

















検診車の利用状況

施設名 新潟県済生会三条病院

検収日 平成24年2月2日

機器名 胃胸部併用X線検診車

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成23年度													
稼働日数 (日)	/										3	2	5
巡回先数 (箇所)											3	2	5
受診者数 (人)											217	183	400
運行距離 (km)											98	32	130
平成24年度													
稼働日数 (日)	14	12	10	10	8	10	10	8	6	0	9	4	101
巡回先数 (箇所)	14	12	10	10	8	10	10	8	6	0	9	4	101
受診者数 (人)	659	477	630	424	388	870	420	293	200	0	313	360	5,034
運行距離 (km)	273	187	210	75	19	272	104	46	33	0	22	50	1,291
平成25年度													
稼働日数 (日)	15	13	/										28
巡回先数 (箇所)	15	13											28
受診者数 (人)	495	457											952
運行距離 (km)	283	254											537